

学力向上に向けた取組

函館市立大川中学校

1 課題

- 心を耕し、豊かな心を育む教育活動の工夫
- 学ぶ意欲を高め、基礎・基本の確実な定着を目指す授業、教育課程の工夫

2 課題解決の具体策

- ①ノーチャイムによる時間の自己管理や生徒の手による感動あふれる集会活動や学校行事の創造
- ②全員で取り組む道徳学習や性の学習を含めた、本物施設での体験活動の充実
- ③全校で取り組む「朝読書」
- ④学び合い等の積極的に言語活動を取り入れた授業構築と校内研修
- ⑤複数教員による数学の指導や長期休業中や放課後の個別指導

特色ある
教育活動

3 取組の概要

①～③について

本校の伝統であり、生徒の学ぶ意欲の伸張に大きく寄与している取組である。「タイム着席」や集会時の移動など自ら考え行動できるようになっている。一般的な副読本を使った道徳の時間以外にも外部からの講師を招いたり、性の学習でも「赤ちゃん抱っこ」や「思春期教室」など外部との交流を図りながら生徒の体験値がより高まることをねらい、文化祭や体育大会などは芸術ホールや陸上競技場を使用するなどしてより本物に近い体験となるよう工夫している。「朝読書」については実施3年目を迎え定着している。活字離れを防ぐだけでなく、落ち着いた学校生活の始まりにより影響が認められる。

④生徒の学力向上に資する活動として、今年度より互いの学び合いや話し合い活動等の言語活動を授業に取り入れることを校内研修にて取り上げ、教職員が一体となって進めている。初年度である今年の成果は検証過程であるが、生徒の授業への取り組みは積極的になったと評価している。

⑤について

本校にはT. T. 加配1名、理数教育指導員1名(以下指導員)、特別支援教育支援員1名(以下支援員)が配置されている。数学の指導体制として通常のTT配置の他に指導員も配置し、1～3年の全時間について複数体制を敷いている。時には3名の指導者が配置されることもあり、一斉授業ではなかなか理解が進まない生徒に対しても個別対応している。支援員は主として1・2学年に配置され、特別な支援を必要とする生徒に対応しているが、数学の授業では指導員、T2教員とともに学級全体に目を配っている。また、教員・指導員また、学年団として意欲のある生徒やテスト結果などから対応が必要と判断する生徒には、放課後や長期休業中の補習や深化学習を呼びかけ参加させる等、個に対応しながら取りこぼしや授業に遅れがでないよう指導している。

4 成果と課題

- 学力テストやCRTの結果の比較から基礎的な学力は向上していると判断している。
- 生徒の学習に対する意欲の高まりは、授業の態度、講習補習への参加数の向上、生徒の自己評価アンケート等から推察できる。
- 本校程度の規模であれば、学年毎に学力や学習意欲のばらつきが大きく、それぞれの学年で個別の対応が要求されるため、学校としての共通な取り組みは意味を持ちにくい。単年度毎の評価ではなく、3年間の追跡調査が大切である。「学びの習慣化」にむけて、各教科の授業と家庭学習の継続的な連携が必要であり、今後の課題である。